

## おもな検査項目の説明

総蛋白	血清中のたんぱく質の総量です。高い場合は、慢性肝炎や肝硬変など、低い場合は栄養不良や重い肝臓病が疑われます。
総ビリルビン	ヘモグロビンから作られる色素で、胆汁の成分になっています。黄疸になると体が黄色くなるのはビリルビン色素が増加するためです。
AST (GOT) ALT (GPT)	ASTとALTはともに肝臓に多く含まれるアミノ酸を作る酵素で、肝細胞が破壊されると血液中に漏れ、数値は高くなります。肝炎や脂肪肝、肝硬変など、主に肝臓病を発見する手がかりとなります。
ALP	肝臓、骨、腸、腎臓など多くの臓器に含まれている酵素で、臓器に障害があると血液中に流れ出ます。主に胆道の病気を調べる指標となります。
コリンエステラーゼ	肝臓で合成される酵素で、栄養状態の目安となり、肝細胞障害で低くなります。
LD (LDH)	肝臓、腎臓、心筋など多くの臓器に含まれている酵素で、臓器に障害があると血液中に流れ出ます。心筋梗塞、肝炎などで高くなります。
γ-GT	アルコールに敏感に反応し、アルコール性肝障害を調べる指標となっています。
アミラーゼ	膵臓と唾液腺から分泌される消化酵素で、急性・慢性膵炎、流行性耳下腺炎などで高くなります。
リパーゼ	膵臓から分泌される脂肪を分解する酵素です。
CK	心筋や骨格筋などの組織・細胞の障害を反映する酵素です。そのため、これらの病気の診断や治療効果、予後の具合をみるのに重要です。
尿素窒素 (BUN)	たんぱく質が分解されてできた最終産物で、肝臓で生成され腎臓から尿中へ排泄されます。身体の組織が大量に壊れたり、腎機能に異常がおこると高値を示します。
クレアチニン	筋肉内の物質からつくられ、クレアチニン量の測定は、腎臓の排泄能力を反映します。数値が高い場合、腎機能障害や腎不全が疑われます。
尿酸	細胞の核の成分であるプリン体が分解してできた老廃物です。代謝異常により濃度が高くなると、一部が結晶化し、それが関節にたまるとう風痛になります。
総コレステロール	コレステロールは血管の強化・維持に重要な役割をはたしている物質です。しかし、血液中にコレステロールが増えすぎると、動脈硬化をはじめとして生活習慣病の原因となるさまざまな障害がおこります。
中性脂肪	脂肪の一種で、エネルギー源として重要な役割を果たします。増えすぎるとコレステロールと同様に動脈硬化の原因となります。検査前の食事の影響を強く受け、前夜の夕食の内容によって高値になることがあります。
HDL コレステロール	コレステロールの一種で動脈の壁についた過剰なコレステロールをはがす役目をする善玉コレステロールです。低値の場合動脈硬化が進行しやすいと考えられています。
LDL コレステロール	コレステロールを末梢の細胞に運搬する働きを担っていて非常に重要な役割を果たしているのですが、末梢へのコレステロールの増加は動脈硬化や虚血性心疾患への危険因子となるところから「悪玉コレステロール」と呼ばれるようになりました。
ナトリウム カリウム クロール	体液中には電解質といわれる物質がイオンになって溶けていて、一定のバランスを保っています。このバランスが崩れると身体にいろいろな不都合が生じます。電解質の値をみることで体内の異常や障害を診断します。
カルシウム	身体のカルシウムのほとんどは骨と歯に集まっています。細胞内カルシウムは、生命維持にきわめて重要な働き（筋肉の収縮、神経命令の伝達、白血球の免疫活動など）があり血液中のカルシウム濃度は一定に保たれる機構がありますが、不足すると骨から補われます。このため、不足すると骨折・骨粗鬆症を起こします。
グルコース	血液中のグルコースは生命維持のために使われる大切なエネルギー源です。常に血中濃度が一定になるようにコントロールされていますが、糖尿病などでは高値になります。
HbA1c	ブドウ糖が結合した血色素（ヘモグロビン）の割合を測定しています。検査前1ヶ月間くらいの血糖値の平均レベルを見ることができます。
CRP	生体内組織の炎症に伴い血液中ですばやく上昇し、快方に向かうと速やかに減少するという特徴を持つ炎症反応マーカーです。
鉄 (Fe)	鉄は赤血球の中のヘモグロビンをつくる成分のひとつで、貧血の原因を調べるときに行う重要な検査です。胃や腸の潰瘍、子宮筋腫などで体内から多くの血液が失われると、強い貧血となり、同時に鉄分も失われると血液中の鉄は低値になります。
白血球数	白血球は外部から進入した病原体を攻撃する細胞で、数値が高いと感染症や白血病、がんなどが疑われます。外傷がある場合や喫煙、ストレス、風邪などでも上昇します。
赤血球数、ヘモグロビン	赤血球数の増加の場合には多血症と診断されます。減った状態は貧血といい、酸素の運搬量が低下して体内が酸素欠乏状態になります。
血小板数	血小板には血管が傷ついたときその部分に付着して血栓を作り血を止める作用があります。血小板が減ると出血しやすく、血も止まりにくくなります。
白血球分類	白血球には、体内に侵入した異物や病原菌を食べて体を守る好中球、免疫に関するリンパ球、アレルギーに関する好酸球、その他好塩基球、単球などの種類があり、これらの成分の増減をみていろいろな疾患を判断する検査です。
尿検査	尿の成分には身体に不必要な老廃物や多く取り過ぎた物質が含まれ、血液成分をある程度反映するので腎疾患だけでなく、さまざまな疾患の診断にも役立ちます。

\* 結果の詳細につきましては、主治医にご相談ください。